

2008. 6. 22 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



きよめのハイウェイ⑥ 「きよめを齎す信仰」

(ローマ人への手紙6章6 - 11節)

- 6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。
- 7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。
- 8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることもなる、と信じます。
- 9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。
- 10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。
- 11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。

A. 救いは信仰のみによる

1. 救いは、徹頭徹尾信仰による

- ・信仰だけが条件：「主イエスを信じなさい。」(使徒 16:31)
- ・行いや功績によらない：「恵みのゆえに、信仰によって救われた。…自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」

(エペソ 2:8)

「人は律法の行ないによつては義と認められず…」(ガラテヤ 2:16)

2. 信仰によって始まり信仰によって全うされる
 - ・ 行いによって完成しようと言うのは邪道（ガラテヤ 3:2-5）
3. 聖化の転機に立つのも信仰による
 - ・ キリストの十字架と一体化する信仰：（ローマ 6:6-11）
 - ・ 約束を信じ、安息する信仰：「信じた私たちは安息にはいる」（ヘブル 4:3）
 - ・ キリストの贖いによって近づく信仰：「全き信仰をもって、真心から神に近づこう…」（ヘブル 10:22）
 - ・ 心をきよめてくださるとの信仰：「彼らの心を信仰によってきよめて」（使徒 15:9）
4. 転機の後でも信仰によって生きる
 - ・ キリストを信じる信仰によって生きる：「私を愛し私の為にご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によって」（ガラテヤ 2:20）

B. 聖化を齎す信仰の内容（ローマ 6 章から）

1. キリストに属く信仰：

バプテスマの本義が「キリスト・イエスにつく」（3 節）、「キリストにつき合わされる」（5 節）ものである事を確認。
2. キリストと共に死ぬ信仰：

彼と共に十字架についたのだという納得。「罪の奴隷でなくなる」（2、6、7 節）「古い人が十字架につく」（6 節）「罪の体が滅びる」（6 節）
3. キリストと共に甦るといふ信仰：

「いのちにあつて新しい歩みをする」（4 節）、「神に対して生きるものとなる」（10、11 節）
4. 計算に立った告白的信仰：

「思いなさい」（=計算する、キリストの十字架上の贖いが完全なものであり、それが私のものであるということ、信仰によって受け取ること）
5. 画然とした決断と告白：

アオリスト時制、画然とした決断と告白をもって
6. 立ち続ける信仰：

信じる=自分を委ねて全存在をあるものに寄りかかること

終わりに：ローマ 6：11 の信仰に立とう

<テーマソング> 「みくにの大路」（福讃 365）

- ①みくにの大路に 花咲きかおり
 救いを喜ぶ 歌声絶えず
 （折返）みくにの大路を 直く歩めば
 憂いの雨晴れ、朝日輝く

- ②大路をいきつつ み声を聞きて
さかえの御顔を 仰ぐうれしさ
- ③めぐみの春雨 草木にかかり
泉は湧きいで 旅人（たびと）を生かす